

(別紙1)

## 自己評価及び外部評価 結果

作成日 令和4年10月24日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791200039		
法人名	株式会社カメリヤ・プランニング		
事業所名	グループホームつばき		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府泉南郡熊取町大久保東一丁目7番13号		
自己評価作成日	令和4年8月20日	評価結果市町村受理日	令和4年11月1日

### 【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true</a>
---------------------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市岡山町499番地の1
訪問調査日	令和4年9月29日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JR阪和線熊取駅から徒歩10分の閑静な住宅街にグループホームつばきがある。3階建ての建物の2階、3階が当事業所で1階は高齢者住宅となっており、行事の時などは1階の利用者様との交流も行っている。カラオケやおやつ作り壁画作りなど、利用者様に合わせたレクリエーションを提供している。春には職員と一緒にお花見ドライブに出かけ、秋は地元のだんじりを鑑賞し、近隣住民との交流もある。(現在コロナ禍で制限されている事もある。)冬は施設内でクリスマスバイキングを催し利用者様のリクエストに答えてバイキングメニューを考え職員と一緒に食事を楽しんでいる。2か月に1回「つばき新聞」を家族様に向けて郵送し、施設内で行った行事や利用者様のご様子を報告している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームつばきは、『その人らしさを尊重して安心して暮らせるGH、地域との関りを大切にするGH、寄り添う介護・支援のできるGH』を理念としている。月1回のミーティングでは、利用者に寄り添いながら支援を行うことで、利用者の抱えている不安を取り除き、安心できる暮らしにつなげられるような支援に取り組んでいるかどうかを確認し、日々理念の実践に励んでいる。

食事については、3食とも同法人内の介護給食センターにて調理された料理を提供しているが、職員の検食結果と利用者の意見を合わせて、当該給食センターへ報告することで、提供する食事内容の改善に努めている。また、敷地内の畑で収穫した野菜等を汁物の具材に使用したり、利用者の希望を優先してメニューを変更し、バイキングスタイルの食事を試みたり、みんな焼そばやたこ焼きを作ったり、カップラーメンをメニューに加えるなど、利用者の要望を取り入れながら、食事が楽しいものになるよう支援を行っている。

入浴については、入浴日(曜日)を1ユニットは月、木、2ユニットは火、金と双方が異なる曜日になるように設定しており、ユニットを跨いで入浴可能とすることで、利用者が入浴機会の確保に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所に掲示し、職員への周知及び理解を求め、サービスの質の向上に努めている。	理念は各ユニットの事務所及びパンフレットに掲載している。また、管理者は申し送り時や月1回のスタッフミーティングにおいて理念を確認し、職員に対し理念の周知に努めている。理念の実践に向けて、利用者の不安を取り去るために、常に利用者に寄り添った支援に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出時に地域の方達とあいさつを交わしたり、秋祭りの時は施設の敷地内から地域の方たちと一緒に見学したり、認知症カフェの参加で地域の方々と交流を図っていましたが、最近ではコロナ禍で出来ていない。	自治会には加入していない。現在はコロナ禍にあり、地域住民とは散歩時に挨拶を交わす程度である。	自治会に加入するなど、積極的に地域との関りを持ち、利用者と地域とのつながりをさらに重視した取り組みに期待したい。特に、コロナ禍が落ち着けば、広く地域住民を対象にした介護相談の実施計画があるとのこと。今後の活動に注目したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に行っていない。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	高齢介護課、地域包括担当者が出席していたが、コロナ感染予防の観点から現在は事業報告を送付し、後日要望・意見を頂き、職員と共有しサービス向上に努めている。	運営推進会議(令和4年5月分)には熊取町担当課、地域包括支援センター各職員と事業所管理者、同副主任が出席して開催した。地域の代表者やグループホーム家族代表などの出席はない。今はコロナ禍のため、事業所の現状や活動内容の報告等をあらかじめ出席予定者にFAXで送信し、後日意見等をFAXで返信してもらう形式で開催している。議事録は職員間で閲覧し、意見や提案等はミーティング等で検討し、サービス向上に活かせるよう取り組んでいる。	地域密着型事業所として、地域との関りを重視した取り組みを行うために、少なくとも地域の代表者を交えた会議の開催が望ましい。	

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議や書類を持参した時に利用者の情報や空室状況を報告している。その他電話やFAXでの情報交換を行っている。</p>	<p>町の担当課には運営推進会議の資料を持参しており、その際に活動内容や空き状況などの近況を報告している。これまでに困難事例について地域包括支援センターや社会福祉協議会などの関係者らとともに地域ケア会議を開催してもらうなど、積極的に協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員に身体拘束マニュアルの研修を行い周知している。利用者の安全のため玄関の施錠をしている。外出希望の利用者様には職員と一緒に外出している。</p>	<p>1年に1回は身体拘束に関する内部研修を実施している。また2か月ごとに身体拘束対策委員会を開催している。一時的にベルト使用が必要な利用者には、家族から同意書を得ている。安全面を優先し、終日玄関は施錠している。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事務所内で虐待防止に関する研修を行い意識を高め防止に努めている。また虐待を発見した時はすぐに地域包括支援センターへ相談している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員全員が学習会に参加するのは難しいため資料を回覧し、レポートを提出して学ぶ機会を設けている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書及び重要事項説明書においては内容を十分説明し質問や意向を聴き対応し理解して頂いた上で契約を交わし入居後にトラブルがないように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や面会時に家族から意見や要望を聴く機会を設けている。(現在はコロナ感染予防の観点からで電話で家族から聴いている。)また職員一人ひとりが家族から意見や要望を気軽に話して頂けるような雰囲気作りをし、サービスの向上や改善に努めている。</p>	<p>家族の意見や要望等は、主に家族の面会時に聴き取っている。管理者やリーダー職員が電話で聴き取ることもある。意見等があれば業務日誌に書き留め、申し送り時に職員間で周知することとしている。自宅での暮らし方を継続できることを望む家族が多い。</p>	

11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎月行われるスタッフミーティングで職員の意見や提案を聞く。また企画・提案書の提出を積極的に行っている。2ヶ月に1回の福祉部会で意見を反映させている。</p>	<p>日頃から、職員が意見を話し易い雰囲気作りを行っている。レクリエーションの企画、日々の食事内容や外出機会の改善など、職員の意見を積極的に運営面に反映させる取り組みを行っている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年2回の人事考課を行っている。勤続年数や資格などの手当を設け、職員が意欲や向上心を持って勤務できる職場作りに努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入社時には入社研修を行い一年を通して社内研修と個別研修を行い意識向上に努めている。また社外での研修参加を促進している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>コロナ禍前は認知症カフェへの参加など同業者と交流する機会がありましたが、最近は参加できておらず、ネットワークづくりや勉強会の機会がない。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービスを開始する前にゆっくり時間をかけて面談を行い、生活歴や趣味などの情報把握に努め、入所後はなるべく多く声掛けを行い不安や心配事や要望・意見に傾聴し、より良く信頼関係を築いていけるように努める。</p>		

16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族から不安なこと、要望は職員一人ひとりが周知し、随時対応させて頂いている。また入居後の利用者の様子を家族様に報告し、安心して頂けるように努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時にその方に今一番必要とするサービスがあれば家族と共に考え、ご本人や家族の要望に沿った他のサービスを紹介する。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人が必要な存在であると感じて頂くため洗濯干しや洗濯物たたみ等のお手伝いを役割として行って頂いている。できることをにやりがいや楽しみをもって暮らして頂けるよう支援している。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>コロナ禍で面会制限がありますが、家族から電話があった時は施設での生活の様子を伝え、情報を共有し意見を頂き、共に利用者を支えていく関係を築いている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者が入所以前から馴染みのあった場所や人と関係が途切れないように努めている。本人や家族から馴染みの場所への外出や面会の申し出がある時は応じている。(現在コロナ感染予防の観点から行えていないが、電話の取次や手紙などで対応させて頂いている。)</p>	<p>利用者の希望で、以前の自宅や馴染みのカラオケ店の近くをドライブしている。また、馴染みの人への手紙や年賀状を送る支援を行っており、利用者によっては、職員が一部代筆することもある。なお、家族や知り合いの人との面会は予約制とし、陰性証明のある方のみ受け入れている。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>レクリエーションの参加を促し、日々の生活の中で利用者同士が声掛け協力して過ごして頂けるよう見守り支援を行っている。</p>		

22	<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>他施設や医療機関への転居の場合は介護サマリーなどの情報提供を行っている。入院退所となった利用者の家族が相談や連絡しやすい関係作りを心掛けている。</p>		
----	---	---	--	--

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	<p>9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常のコミュニケーションの中で利用者の言動から思いや希望をくみ取れるよう努めている。意思疎通が困難な利用者には本人が「はい」「いいえ」で答えやすいように質問するように心がけている。職員が聞き取った情報は個別ノートに記載している。</p>	<p>利用者の希望や要望等は日頃の支援の中で聴き取っている。なるべく答え易い問いかけで思いが汲み取れるように工夫を行っている。利用者が希望して、野菜（小松菜や小かぶなど）や花を栽培したり、近くの牧場へ馬を見に出かけたりしている。また、動物を飼いたいという希望から、事業所内で亀を飼っている。</p>	
24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>利用者とのコミュニケーションや家族からの情報を職員間で共有し、利用者一人ひとりに合わせた生活環境やケアを提供できるように努めている。</p>		
25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>個別の記録表にバイタルチェックや食事・水分摂取量、排泄表の記録を行い現状の把握に努めている。また訪問診療時の様子が職員間で共有できるように往診ノートに内容を記録している。</p>		
26	<p>10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>状態の変化がみられたり困難な問題が発生した時は早急にケアカンファレンスを行い、家族と連絡をとり、現状に即したケアができるように計画の見直しをしている。</p>	<p>介護計画の作成にあたり利用者、家族から、要望や意見を聴き取り、担当職員等の関係者と話し合い、介護計画に反映している。必要なときには随時の見直しも行なっている。また、家族には、来所時に説明し同意を求めている。</p>	

27	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者の日々の様子や気づきを個別ノートや業務日誌に記入し職員間で申し送りをし、情報を共有しより良いケアができるように努めている。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>就寝時間や入浴時間など利用者様の体調やリズムに合わせてできる限り答えるように取り組んでいる。</p>		
29	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>協働していない。</p>		
30	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>内科の訪問診療を受けている。入所前に受診について本人や家族の希望を聞き手っており、従来のかかりつけ医を受診されたり、他科受診は希望された所に受診される。</p>	<p>利用者全員が希望により、事業所に定期往診している協力医療機関(内科)をかかりつけ医としている。整形外科や精神科、眼科等は従来のかかりつけ医に家族が同行し受診してる。家族の同行ができない場合は、代わりに職員が同行している。受診結果を個人ノートに記録し、管理者が電話又は面会の際に家族に伝えている。</p>	
31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問看護が週1回の定期訪問看護で日常の体調の変化を報告し健康管理に努めている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時に施設での生活の状況や認知症状などを記載した介護サマリーを提供する。入院中に家族を通じて病院側の治療方針の連絡を受けている。また入院中も面会に行き、担当医や看護師と情報交換を行っている。</p>		

33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に向けた方針を十分説明している。利用者の体調の悪化など状態に変化がおこった場合は家族に報告し話し合いを行っている。	事業所としては看取りはしない方針であり、利用開始前に利用者、家族に方針等を説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、全職員に周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の指導のもとで昼夜の避難訓練を行っている。災害時用に利用者と職員の備蓄品3日分を常備している。	昼夜を想定した避難訓練を年2回、利用者と一緒にしている。緊急災害時の連絡網は事務所に掲示してあるものの、近隣住民等の記載はなく、地域の協力を得るための体制は築けていない。備蓄はリネン類、飲料水や食品が3日分あり、食品の賞味期限等は当法人内介護給食センターが管理している。	災害時には、地域との連携が不可欠であり、避難訓練に地域住民も参加してもらうなど、平素から地域との協力関係を築くための取り組みに期待したい。

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報やプライバシー保護について社内研修を行っており、職員も利用者様の誇りやプライバシーを損なわない様に意識し、利用者様一人ひとりに合わせた言葉かけや対応に努めている。	プライバシー保護に関する研修や接遇研修をミーティング時に実施している。利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないような対応に努めており、名前の呼び方はもちろん、排泄や入浴時のさりげない接し方や言葉かけに注意している。個人記録等は取扱いに注意し、鍵の掛かるロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でその都度希望や思いを受け止め自己決定できるように支援している。		



38	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>集団生活の中で個々の希望に沿う事は難しい時もありますが、できる限り本人のペースに合わせ満足して頂けるように心掛けている。</p>		
39	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>季節に合った利用者の好きな服を職員と一緒に選んで頂いている。月に1回の訪問理容の際も利用者様の希望を聞いて散髪して頂いている。</p>		
40 15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者一人ひとりに合わせた食事形態や分量で提供している。また個人の能力に合わせて食事前のテーブル拭きなどできることをお手伝いして頂いている。コロナ禍前は毎年、家族や職員と一緒に外食レクリエーションでいつもと違う雰囲気ですぐに食事を楽しむ機会を設けてましたが、現在は行えていない。毎月お刺身の日を設けたり、クリスマスバイキングやおやつレクリエーションで利用者の好きな物を職員と一緒に作って食事を楽しんでいる。</p>	<p>副食は同法人の介護給食センターで調理し、事業所に配送している。主食と汁物は事業所内で調理している。ミキサー食、キザミ食等は利用者に合わせて食べやすく工夫している。また、食事の楽しさを増やすために、月1回事業所内で焼きそばやたこ焼きなどを利用者と作ったり、2か月に1回お菓子バイキングなどを開催している。畑で収穫した野菜なども汁物の具材として楽しんでいる。</p>	
41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食時ごとに食事量、水分摂取量を記録している。給食センターでバランスを考えたメニューや糖尿食や減塩食の提供も行い個々に対応している。</p>		
42	<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後に利用者様の能力に応じた口腔ケアを行っている。週1回歯科衛生士による口腔ケアも実施している。</p>		

43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表で利用者それぞれの排泄パターンを把握しトイレ誘導の声掛けをさせて頂いている。できる限りトイレでの排泄が出来るように支援している。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者の状態に応じて声掛けやトイレ誘導を行っている。トイレでの排泄を拒否する利用者には声掛けする職員を代える等の対応を行っている。夜間は、居室内のポータブルトイレを使用したり、紙おむつを使用する利用者もいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄チェックを行い便秘がちな方に対しては水分補給やオリゴ糖入りの飲み物を飲んで頂いている。医師や看護師の相談のもと緩下剤を服用して頂いている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>利用者の体調や希望を考慮して週2～3回の入浴を行っている。また便失禁などあった場合は清潔保持のため、その都度シャワー浴を行っている。できる限りプライバシーに配慮して、入浴の時間は利用者に楽しんで頂けるように支援している。</p>	<p>原則として週に2回の入浴が基本であるが、希望により週に3回の入浴も可能である。午前中を入浴時間としている。入浴中、浴槽には絶えず新しい湯を継ぎ足しており、利用者ごとの湯の入れ替えはしていない。また、季節に応じてゆず湯を提供するなど、入浴が楽しいものになるような取り組みをしている。排泄に失敗したような時にはシャワー浴での対応を行っている。また、入浴を拒む利用者には入浴時間の変更や声掛けする職員を代える等の工夫をしている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>起床、消灯時間は決まっているが、その日によって好きなテレビ番組などがある日などはいつもより長く起きていたり、利用者のペースに合わせてお休み頂けるように支援している。また使い慣れた寝具を使用して頂き安眠して頂けるよう配慮している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個々のカルテに薬剤情報を綴っており、全職員が閲覧確認し理解している。薬の変更や臨時薬が処方された場合は申し送りを行い職員全員が把握できるようにしている。</p>		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>洗濯物干し、洗濯物たたみや花の水やり、食器拭き等、利用者のできる事を無理のないようにして頂けるように支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>コロナ感染予防の観点から、日常的な外出はできていませんが、感染予防をして職員と車でお花見や紅葉のドライブに出かけたり、施設内を散歩して花の水やりを兼ねて日光浴を行っている。家族との外出は病院受診の時のみとなっている。</p>	<p>コロナ禍でできる限り不特定の人との接触を防ぐため、施設周辺の散歩や事業所の敷地内にある畑での花や野菜への水やり等で屋外でのひと時を楽しめるよう支援している。また車内からだけでもお花見や紅葉が楽しめるようドライブに出かけている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族よりお小遣いを預かり管理させて頂いている。利用者の希望や必要に応じて出金させて頂いている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>コロナ禍で面会に制限があるため、家族様から電話があった時は取り次ぎお話しして頂いている。また本人が書いた年賀状を毎年家族に送っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は毎日掃除を行い、天候や時間帯に合わせて空調光・テレビや音楽の音量調節に配慮している。各テーブルには、施設の庭で咲いている季節の花を飾り、和むスペース作りを心掛けている。また利用者が製作した季節の壁飾りやレクリエーションの写真を飾っている。</p>	<p>解放感のある共用スペースには、テーブル、ソファ、テレビを設置している。利用者は各々、気に入った場所に座り、テレビを観たり、ぬり絵やパズルをしたりと自分のペースで過ごしている。居間の壁面には行事の写真の他、職員と利用者が一緒に作った季節のタペストリーやカレンダー、季節毎のちぎり絵などを掲示している。動物を飼育したいという利用者の要望で、亀を飼育している。</p>	

53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>各居室やリビングのソファ・テラス等自由にくつろげる場所がある。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には利用者や家族の希望に合わせた家具を入れて頂き、思い出の物品や写真を飾り心が落ち着く環境作りをしている。また安全に配慮して家具の配置に工夫している。</p>	<p>居室には、洗面、クローゼット、ベッド、テレビ、エアコンを備え付けている。利用者の持ち込む物に特に制限は設けておらず、それぞれが使い慣れたソファ、椅子、タンス、写真などを持ち込んでいる。居室ドアには入居者の氏名を書いた表札を掲げている。居室内の掃除は職員が行っているが、シーツの交換は利用者と一緒に行っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>フロア内、トイレ、浴室には安全面に配慮して手すりを設置している。職員が見守りを行いながら利用者個々の身体状況に合わせて安全で自立した生活が送れるように支援している。また担当の職員の手作りの居室の表札で自分の部屋がすぐにわかるようにしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができてきている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (3Fユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所に掲示し、職員への周知及び理解を求め、サービスの質の向上に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出時に地域の方達とあいさつを交わしたり、秋祭りの時は施設の敷地内から地域の方たちと一緒に見学したり、認知症カフェの参加で地域の方々と交流を図っていましたが、最近ではコロナ禍で出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	高齢介護課、地域包括担当者が出席していたが、コロナ感染予防の観点から現在は事業報告を送付し、後日要望・意見を頂き、職員と共有しサービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議や書類を持参した時に利用者の情報や空室状況を報告している。その他電話やFAXでの情報交換を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	職員に身体拘束マニュアルの研修を行い周知している。利用者の安全のため玄関の施錠をしている。外出希望の利用者様には職員と一緒に外出している。		

7	<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事務所内で虐待防止に関する研修を行い意識を高め防止に努めている。また虐待を発見した時はすぐに地域包括支援センターへ相談している。</p>			
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員全員が学習会に参加するのは難しいため資料を回覧し、レポートを提出して学ぶ機会を設けている。</p>			
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書及び重要事項説明書においては内容を十分説明し質問や意向を聴き対応し理解して頂いた上で契約を交わし入居後にトラブルがないように努めている。</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や面会時に家族から意見や要望を聴く機会を設けている。(現在はコロナ感染予防の観点からで電話で家族から聴いている。)また職員一人ひとりが家族から意見や要望を気軽に話して頂けるような雰囲気作りをし、サービスの向上や改善に努めている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎月行われるスタッフミーティングで職員の意見や提案を聞く。また企画・提案書の提出を積極的に行っている。2ヶ月に1回の福祉部会で意見を反映させている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年2回の人事考課を行っている。勤続年数や資格などの手当を設け、職員が意欲や向上心を持って勤務できる職場作りに努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入社時には入社研修を行い一年を通して社内研修と個別研修を行い意識向上に努めている。また社外での研修参加を促進している。</p>		



14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍前は認知症カフェへの参加など同業者と交流する機会がありましたが、最近では参加できておらず、ネットワークづくりや勉強会の機会がない。</p>		
<p><b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービスを開始する前にゆっくり時間をかけて面談を行い、生活歴や趣味などの情報把握に努め、入所後はなるべく多く声掛けを行い不安や心配事や要望・意見に傾聴し、より良く信頼関係を築いていけるように努める。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族から不安なこと、要望は職員一人ひとりが周知し、随時対応させて頂いている。また入居後の利用者の様子を家族様に報告し、安心して頂けるように努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時にその方に今一番必要とするサービスがあれば家族と共に考え、ご本人や家族の要望に沿った他のサービスを紹介する。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人が必要な存在であると感じて頂くため洗濯干しや洗濯たたみ等のお手伝いを役割として行って頂いている。できることをにやりがいや楽しみをもって暮らし支えよう支援している。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>コロナ禍で面会制限がありますが、家族から電話があった時は施設での生活の様子を伝え、情報を共有し意見を頂き、共に利用者を支えていく関係を築いている。</p>		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が入所以前から馴染みのあった場所や人と関係が途切れないように努めている。本人や家族から馴染みの場所への外出や面会の申し出がある時は応じている。(現在コロナ感染予防の観点から行えていないが、電話の取次や手紙などで対応させて頂いている。)		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの参加を促し、日々の生活の中で利用者同士が声掛け協力して過ごして頂けるよう見守り支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や医療機関への転居の場合は介護サマリーなどの情報提供を行っている。入院退所となった利用者の家族が相談や連絡しやすい関係作りを心掛けている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションの中で利用者の言動から思いや希望をくみ取れるよう努めている。意思疎通が困難な利用者には本人が「はい」「いいえ」で答えやすいように質問するように心がけている。職員が聞き取った情報は個別ノートに記載している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	利用者とのコミュニケーションや家族からの情報を職員間で共有し、利用者一人ひとりに合わせた生活環境やケアを提供できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の記録表にバイタルチェックや食事・水分摂取量、排泄表の記録を行い現状の把握に努めている。また訪問診療時の様子が職員間で共有できるように往診ノートに内容を記録している。		

26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の変化がみられたり困難な問題が発生した時は早急にケアカンファレンスを行い、家族と連絡をとり、現状に即したケアができるように計画の見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子や気づきを個別ノートや業務日誌に記入し職員間で申し送りをし、情報を共有しより良いケアができるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	就寝時間や入浴時間など利用者様の体調やリズムに合わせてできる限り答えるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協働していない。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科の訪問診療を受けている。入所前に受診について本人や家族の希望を聞き手っており、従来のかかりつけ医を受診されたり、他科受診は希望された所に受診される。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	訪問看護が週1回の定期訪問看護で日常の体調の変化を報告し健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に施設での生活の状況や認知症状などを記載した介護サマリーを提供する。入院中に家族を通じて病院側の治療方針の連絡を受けている。また入院中も面会に行き、担当医や看護師と情報交換を行っている。		

33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に向けた方針を十分説明している。利用者の体調の悪化など状態に変化がおこった場合は家族に報告し話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、全職員に周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の指導のもとで昼夜の避難訓練を行っている。災害時用に利用者と職員の備蓄品3日分を常備している。		

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報やプライバシー保護について社内研修を行っており、職員も利用者様の誇りやプライバシーを損なわない様に意識し、利用者様一人ひとりに合わせた言葉かけや対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でその都度希望や思いを受け止め自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の中で個々の希望に沿う事は難しい時もありますが、できる限り本人のペースに合わせ満足して頂けるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った利用者の好きな服を職員と一緒に選んで頂いている。月に1回の訪問理容の際も利用者様の希望を聞いて散髪して頂いている。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者一人ひとりに合わせた食事形態や分量で提供している。また個人の能力に合わせて食事前のテーブル拭きなどできることをお手伝いして頂いている。コロナ禍前は毎年、家族や職員と一緒に外食レクリエーションでいつもと違う雰囲気です。食事を楽しむ機会を設けてましたが、現在は行えていない。毎月お刺身の日を設けたり、クリスマスバイキングやおやつレクリエーションで利用者の好きな物を職員と一緒に作って食事を楽しんでいる。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食時ごとに食事量、水分摂取量を記録している。給食センターでバランスを考えたメニューや糖尿食や減塩食の提供も行い個々に対応している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後に利用者様の能力に応じた口腔ケアを行っている。週1回歯科衛生士による口腔ケアも実施している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表で利用者それぞれの排泄パターンを把握しトイレ誘導の声掛けをさせて頂いている。できる限りトイレでの排泄が出来るように支援している。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄チェックを行い便秘がちな方に対しては水分補給やオリゴ糖入りの飲み物を飲んで頂いている。医師や看護師の相談のもと緩下剤を服用して頂いている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>利用者の体調や希望を考慮して週2~3回の入浴を行っている。また便失禁などあった場合は清潔保持のため、その都度シャワー浴を行っている。できる限りプライバシーに配慮して、入浴の時間は利用者に楽しんで頂けるように支援している。</p>		

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>起床、消灯時間は決まっているが、その日によって好きなテレビ番組などがある日などはいつもより長く起きていたり、利用者のペースに合わせてお休み頂けるように支援している。また使い慣れた寝具を使用して頂き安眠して頂けるよう配慮している。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個々のカルテに薬剤情報を綴っており、全職員が閲覧確認し理解している。薬の変更や臨時薬が処方された場合は申し送りを行い職員全員が把握できるようにしている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>洗濯物干し、洗濯物たたみや花の水やり、食器拭き等、利用者のできる事を無理のないようにして頂けるように支援している。</p>		
49	18 <p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>コロナ感染予防の観点から、日常的な外出はできていませんが、感染予防をして職員と車でお花見や紅葉のドライブに出かけたり、施設内を散歩して花の水やりを兼ねて日光浴を行っている。家族との外出は病院受診の時のみとなっている。</p>		
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族よりお小遣いを預かり管理させて頂いている。利用者の希望や必要に応じて出金させて頂いている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>コロナ禍で面会に制限があるため、家族様から電話があった時は取り次ぎお話しして頂いている。また本人が書いた年賀状を毎年家族に送っている。</p>		

52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は毎日掃除を行い、天候や時間帯に合わせて空調光・テレビや音楽の音量調節に配慮している。各テーブルには、施設の庭で咲いている季節の花を飾り、和むスペース作りを心掛けている。また利用者が製作した季節の壁飾りやレクリエーションの写真を飾っている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>各居室やリビングのソファ・テラス等自由にくつろげる場所がある。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には利用者や家族の希望に合わせた家具を入れて頂き、思い出の物品や写真を飾り心が落ち着く環境作りをしている。また安全に配慮して家具の配置に工夫している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>フロア内、トイレ、浴室には安全面に配慮して手すりを設置している。職員が見守りを行いながら利用者個々の身体状況に合わせて安全で自立した生活が送れるように支援している。また担当の職員の手作りの居室の表札で自分の部屋がすぐにわかるようにしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない



65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない